

---

# メタバース

godlove

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

メタバース

### 【ZINE】

Z0555D

### 【作者名】

good10love

### 【あらすじ】

ネットゲームに熱中する38歳のダメサラリーマン。会社では後輩達に追い越されいまさらやる気も無い、ゲームの世界では有名人。彼はゲームの世界で生きていきたいと思つようになる。

## 彼の理想と現実

この世界で大事なことは多角的な物の見方にある。

個人に固執すれば何も見えず、何かを無くすこともあるかも。。。

晴天：もうそろそろ寝るわあ へへノ

メル：あいへへおやすみ (つ - ) オヤスミー

b o w : おやすみ

ハル：じゃな

これはMMORPGというパソコンゲームのチャット画面だ。

一つの仮想世界に大人数のユーザーが集まり、モンスターを倒したりアイテムを売つたり、友達とお喋りしたりして遊ぶ。

こういつたゲームは近頃流行つていて、幅広い年齢層に人気がある  
顔も知らない人との繋がりは、画面上に映し出される文字とキャラ  
だけだが

各人がそのキャラになりきることで現実社会以上の関係が生まれることも多々ある

実際何度か誰にも言えないような事を相談されたこともあるし  
ゲームで知り合い結婚した人、いやキャラも何人か知り合いにいる  
俺はこの（英雄オンライン）にすっかりハマつていた。

会社が終われば同僚からの誘いも断り

毎日遅くまでゲームをしている。

おかげでゲーム内では俺のキャラ（晴天）はなかなかの有名人だ。  
ゲームの世界は俺を解放してくれる

この世界では年齢など関係なく、小学生と40のオッサンが仲良く  
遊ぶ

顔も知らない者同士、毎日夜遅くまで時間を共有している。

このゲームのテーマは武侠だ。

古代中国の町並みと、スーパーマンのような技。  
レベルが上ると装備できるようになるカツコイイ鎧。  
すべてが俺好みにマッチしている。

俺はオタクではないが、このゲームを始めてからは  
確かにオタクの気持ちはわかる気がする。

仮想空間での俺は

ヨレたスーツで働く38歳のダメリーマンではなく  
世界中から好かれる最強の戦士だ。

滅多に手に入らないアイテムをいくつも持ち

常に誰よりも早くレベルを上げている。

まあ、実際はレベル上げは業者に頼み

業者を通してレアアイテムを現金で買っているだけだが。。

このゲームの特徴として（門派）システムがある

これは、気の合う友達が（門派）つまりサークルを作つて加入し  
(門派)の大会で勝ち抜くというものだ。

俺が門主を務める門派「神撃」は過去に2回この大会で優勝している。

もちろん、優勝できたのは俺の力に依るところが大きいが

俺はそんな事を口にしたことは一度も無い。

当たり前だ、俺は人格者で通ってるからな。

その時も、皆が口を揃えて

晴天さんおかげだね

晴天さん強すぎ！

と言つてくれたが、そんな事ないよみんなの力だよ  
と返しておいた。

ふう

と、気がつくともう夜中の3時だ

やばい、また遅刻するぞ早く寝なくちゃ。

俺が38歳にもなつてゲームにハマってしまったのは  
しうがない事だとも言えた。

俺が18歳で入社したときは典型的な年功序列会社だつたくせに  
25歳の時に急に社長が

「これからは実力が全てだ！」

なんて言い出して、以来どんどん後輩に追い抜かれてしました。  
もちろん、実力主義なら俺にもチャンがある！と思って頑張った。  
しかし、またしても突然社長が

「これからは住宅リフォームでいくぞ！」

と、言い出して営業セミナーやらマーケティングの導入やらですっかり  
付いていけなくなつた

一応、やるだけはやつたが何をやつても裏目にでてこの有様  
で、結局は実力主義の方針通り、俺は平社員の一つ上の班長どまり  
というか、あの頑張りを評価できない、または気づきさえしなかつた  
俺の会社はそのうち倒産するかもしれないな  
やつぱり上だけやる気だしたつて駄目なんだよな  
要領の良い奴が得するだけで、本当に努力してる奴が報われないな  
んて

俺の会社は間違ってるなあ、俺このままいいのかあ？

38歳独身、営業部班長。。。  
趣味、パソコンゲーム

また遅刻か吉沢あー！

「うわー！」

最悪の朝だ、うるさい課長に怒鳴られてる夢で起きた。  
朝7時ジャスト、今日は遅刻しないですむな。

営業部課長・加藤茂 27歳独身 わが社の期待の星。。。か  
会社行きたくねえなあ。。。

俺は今日も憂鬱になりながら「ゴソゴソ」と布団から抜けた。  
3日前に着た、ワイシャツの匂いをちゃんと確認してから着て  
よれたジャケットを羽織り、ネクタイを締めながら  
誰もいない我が家に「行ってきます」と小さく言つて外に出た。

毎日同じ道、同じ電車、同じ会社

～この道のりは我が人生、かあ～

すこし曇った空を見上げると俺はいつそう淋しくなった  
11月の寒気が俺の心に入ってきたみたいだ

いつもの時間の電車に乗り、今日も座れなかつた。  
電車が揺れるたびに、目の前の女性に触れそうになる  
俺は、痴漢に間違われやしないかとヒヤヒヤした。

正直言つて少しでも女性に触れたら

俺は間違いなく痴漢に仕立て上げられるだろう

青いヒゲの剃り跡と、太い眉毛にだらしない垂れ目  
お世辞にもいい男とはいえない事は自身が良く知つて  
いるから俺は両手をまっすぐ上げ

女性に向かつて自分の潔白を証明するようにアピールした  
ただ、少しだけ胸元が気になつたのを気づかれたよう

思い切り睨まれてしまつた。。。

俺には春はこない。。。

会社に着き、いつものように給湯室でコーヒーを入れる  
ズズツと熱いコーヒーをすすりながら席についた。

20人いる我が営業部は今日も朝から騒がしかつた。  
俺と俺の部下2人を除いて、みんなバタバタと忙しそうにこの狭い  
部屋で働いていた。

月末の営業強化週間の為に、保留にしておいた案件をまとめるのに必死なんだろ？。

ああ、もう月末かあ。。もうすぐ門派大会だな。。

「吉澤さん、おはようございます」

部下の坂下の、気の抜けた朝の挨拶で今日もやる気がなくなってしまった。

おう！坂下おはよう！今日もいいスースだな！

俺は精一杯の笑顔で答えた。

坂下は中途入社の社員だが、部長か専務の息子という触れ込みで入社してきた。

その坂下が俺の班に入るというから、もしかして俺にも出世のチャンスか？

と、一時は期待をもつたがなんのことはない、ただのバカ息子だった。

24歳にもなつて、いまだ社会の常識というものをわかつていない。イタリア製かなにか知らんが、ピタピタのスースにクツチカコツチカの靴

いつもナヨナヨして気に食わない。

まあ、それでも俺の一縷の望みには違いないが。。。

「おはようございます！」

でたよ、こいつは山野。俺のもう一人の部下だ。

体育大学出身で熱血漢といえば聞こえはいいが、ただの筋肉バカ自分を「自分」とか「オス！」とか言う生き物を始めてみた。

声はバカでかいし気もきかない、それと最後に必ず「ス」をつけるのがうつとうしい。

まあ、上下関係だけはしっかり守るから俺が言つたことはなんでもする

それに何故かこんなダメな俺の下で働く」とを誇りに思つてゐる変なやつだ

おひ、おはよひ（今日もまつるせーな）

俺達営業部は会社の方針で班ごとに営業に出る、つまり毎日一緒。仲良し三人組つてわけだ。

営業職で毎日真面目に仕事してゐる奴なんかいない（と、思う）だいたい適当にパチンコ行つたり、喫茶店で商談と称してサボつてゐ俺達はその典型だつた、俺なんか坂下と山野に営業いかせて自分はネカフヒで（英雄オンライン）してた事もある。

しかし、流石に今月は落とせない。

来月はボーナスだし、そろそろ俺も昇進を視野にいれないとリストラされる危険がある

リストラされるとゲームのレアアイテムを買えなくなるし業者に昼間頼んでいるレベル上げも出来なくなる。

それは困る、とにかく成績を残さないと。

「よしー今日も頑張つて営業しようぜーおまえらー」

「あーそうですね」

「オス！頑張りますー！」

大丈夫かよ俺達。。。

未来は暗いぜ。。。

さつきから課長の視線を痛いほど感じるし

とにかく外周りにでも出よう

俺はさつさと書類をまとめて一人を急かし外にでた。

古い営業車に三人乗り込み、出発した。

今日こそは新規の契約を取らないと本当にやばいしかし、この役に立たない部下一人は、俺の悩みなんてまったくわかつてやしない

「坂澤さんって休日何してんすか～？」

「坂下よ、 、 、 それは聞くなよ

独身の38歳の男の休日を聞くなよ！ ！

お前は俺の休日にそんなに興味があるのか？ え？ どうなんだ？

お前の休日と違うことだけはハッキリしてるじゃないか！

そんなんだから俺みたいな男の部下なんだよ～

と、 言いたかっただけには専務か部長の息子だ  
そんな事は言える訳が無い

「まあ適当にパチンコでもしてるよ」

これ以上突っ込まれないよ～ うそつけなく答えると

「自分もパチンコ好きです！ 今度一緒に行きましょう～！」

山野よ、 、 、 行くわけないだろ！ バカ！

パチンコなんかした事ないんだよ！

なんでわかんないんだよ！ だいたいなんでお前とパチンコ行くんだ  
よ～え？

毎日お前の暑苦しさにウンザリなのに、 なんでお前と休日にパチン  
コなんだよ！

わかれよ～ ここの空気は読めよバカ！

とは言はず

「ははは。 まあそのうちな」

とだけ答えて、 おこ「コーヒー飲まないか？ サ店に行こう  
と話しせを逸らした。

「あれ？ 今日は頑張るんじゃないんすか～？」

「コーヒー飲んで頭の回転を早めるんだよ！」

打たれさせもできないじゃないか！ハカ！！

卷之三

今度は本当に言いかけた、 、 、 危ない危ない。

いつせバソハンの画面に向かって怒鳴つてゐるが、

「はは、モーリソンも今ハ丁う合ひナ

まつたく、俺の周りには昔から「んな奴しか集まらない

ああ、早く帰りたいなあ、昨日やり忘れてた任務があるんだよなあ。

「俺、最近ゲームにハマってんすよね～あ、吉澤さんはゲームとかしないか、あはは」

え？？

突然何を言し出すんだ坂下あ

だってそれが俺の休日、いや人生になつてるんだから！

まさか、まさか違うよな？

「へえ、そうかあ、昔はゲームやつてたぞお、なんてゲームなんだ

?

「いや、パソコンのゲームなんですね」  
吉澤さんにわかつやすこよひに聞つただけで、本当にパソコンで  
言つたのは  
「吉澤さん、本当にやうじて聞つて  
ですけどね」

そんな事は知つてゐるんだよ坂下あ！聞いてないだろ？早く言えよーー！

「へえ～そつかあPCCって言つのか。はつはつは俺ももう年だな  
「自分もパソコンって呼びますーー！」

どうでもいいんだよ山野あおーーお前は運転してろよー喫茶店はい  
れよーー！

「俺が今一番ハマつてんのは（英雄オンライン）ですね。俺のキャラ  
超強いんですよ

！！！

来たか、俺の時代が来たのか  
まったく、しじうがない奴だ、今までただのクソ餓鬼かと思って  
冷たくしていたが俺が間違つていたようだな、さあーなんでも聞け  
よ！

俺が（晴天）だ！はつはつは！驚くだろうなあ

「へえ、英雄オンラインかあ実はな俺もそ

「それでえ、ゲームに超イタイ奴がいてマジ笑えるんすよーあつは  
つはーー！」

坂下はやつぱり空氣が読めないんだな、といつか俺の雰囲氣の変化  
を感じるよ

まったく、俺が喋つてるのにわざとかぶせて喋つちゃつて

「晴天つてオッサンなんですけどね」

おつさん？

痛いのは晴天つておつさん？

は、ははは、俺にもとうとうきもちまつたか  
更年期障害つてやつが、ちょっと卑い氣もするが  
よる年波つてやつだな、仕方ない。

「え？ 坂下なんて名前だっけ？」

「だからあ晴天つていう変なおつさんが面白いんですよ  
やだなあ吉澤さん更年期障害なんじやないですかあ？ あはははー。」

俺のことか？

確か俺の記憶が正しければ俺のキャラも晴天だつたような、  
それから坂下は、晴天というおつさんのどこがどう痛いのかを  
克明に語りだした。

自称25歳の青年実業家のはずなのに、24時間ゲームしているとか  
20年以上前の歌謡曲をたくさん知っているとか

「ごめん」ではなく「めん」」と言うとか

その他諸々だ、ヽヽヽ

それで、他のプレイヤーの会議の結果

40歳前後のリストラされたダメ人間という結果がでたらしい。

「へ、へ、へ。そんな人もいるんだなあ。あは、ヽヽヽあはははー。」

「そんなんにこの話し面白いですか？」

俺が無理に笑つていてるのに気づきもせず、おこづちをかける坂下よ

俺はやっぱりお前が嫌いだ！！！！

しかし、何故だ！なあぜえだあ！

俺はそんなに嫌われているのか？

いいじやないか20年前の歌を知つてたつて、そんな25歳もいる  
だろつ！

「めんざ」じやだめのかよ！お前らだつて「超～」とかいじや  
ないか！

ああ、あれか、業者に頼んだレベル上げがまづかったのか。  
そうだよな、実業家が昼間からレベル上げはないよな  
いかん、冷や汗と一緒に涙が。

「そ、そのおじさんは嫌われてるのか？すごく強いんだろ？」  
「あれ？なんで強いって知ってるんすか？」言こましたつけ？

ああ！しまつたあ！誘導したくてつい！

なんだよ、お前は本当に！なんで余計なとこに気が付くんだよ！  
その点は山野の方がマシだな、こいつはこよお～バカだから  
何言つてもわかつてないんだから！わかつてもわかつてなくとも  
「オス！」と言えばいいと思つてんだから！  
あ、そうだお前ら合体しろ！そつだよ合体すればまじょひどいんだ  
よ！

「こ、こいつたじやないか！あははは坂下あお前も更年期かあ？あ  
はは！」

「坂下はお前がお前でそんなキャラでしたつけ？超ひぐんですけどマジで」

ははは、決めた。

こいつ殺す、ゲームで殺す、もつ絶対許さん！

ふふ、ふふふふ、よおじこいつのキャラの名前を聞き出すぞお  
(英雄オンライン)はプレイヤー同士で戦えるし、不意打ちもでき

るんだからなあ  
覚悟しろよお、 、 、

「そつかあ、面白そだなあ坂下のキャラはなんてキャラなんだ？」  
「俺のキャラつか？（ハル）ですよ。そのオッサンの門派、 、ああ  
なんていうか同じチームみたいなのに入つてますよ」

（ハル） 、 、なんだつてえ！

（ハル）<sup>ハル</sup>か！ あの、話しかけても「あ、そつ」とかしか言わない

前から気に入らない奴だつて思つてたんだよ、やっぱり現実でも嫌  
な奴だ！

。 、 。

それにしても喫茶店まだか？

「おい、山野。喫茶店見つからないのか？あんまり時間ないぞ」

「オスー吉澤さん、喫茶店入りますかー？」

「いや、入るよー！ そう言つたじやないかー！ あれ？ おい、 こいどじーだ  
よ」

「オスー！ 自分は知りません！」

はあーこれだよ、 つたくもつ  
こいつは本当に使えない奴だな

時計を見るともう2時間も経つて いるのに驚いた  
2時間も気が付かない俺も俺だが

2時間もただひたすら真っ直ぐ走り続けた山野も山野だ  
今から戻ればまた2時間無駄にしてしまう、どうしたものか

「おお、そういえばこの辺は田舎だなあ」

「オス！田舎ッス！」

「そつすね～なんか古い家ばつかですよ」

だいぶ郊外に来てしまつていたようだ、古い家も多いし  
ちょいどいい、この辺で営業してみると

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0555d/>

---

メタバース

2010年10月9日05時12分発行